

2026年6月15日

各位

会社名 マーチャント・バンカーズ株式会社  
代表取締役社長兼CEO 高崎正年  
(コード3121 東証スタンダード)  
問合せ先 執行役員CFO 加藤東司  
(TEL 03-6434-5540)

## 中期ビジョン策定に関するお知らせ

当社は、2026年6月～2029年10月（3年5か月間）を実行期間とする、グループ中期目標「MBKグループ中期ビジョン2029」（以下、「中期ビジョン」と記載します。）を策定し、2026年6月15日開催の取締役会において決議しましたので、お知らせいたします。

なお、当該中期ビジョンをベースとして、2026年10月期中に、2027年10月期～2029年10月期（3か年）の中期経営計画についても策定する方針です。

### 記

#### 1 基本方針

当社は、これまで適切な適時開示及び透明性の高い決算情報の開示に努めてまいりましたが、一方で事業の性質上、不動産や有価証券の売買損益といった見通しが立てにくいビジネスを展開しているため、中期経営計画の発表については当面の間行っておりませんでした。

また、2007年3月期に計上した売上高10,522百万円をピークに、リーマンショックの影響により、2018年3月期には売上高1,794百万円まで減少し、その後、不動産収益物件への投資による家賃収入並びに売却により、2024年10月期には4,446百万円まで回復しました。

この度、当社取締役会において議論を重ねた結果、一致団結して、さらなる高成長を実現する決意をし、この度の中期ビジョン策定を行った次第です。

当社が取り扱っております事業は、不動産と金融という、業種業態を問わない、企業のインフラ的レイヤーのビジネスとなりますが、第五次産業革命に突入したとも言われる現在、その主役であり全ての産業に変革をもたらすと言われているのが「AI」です。

当社は、これから全社一丸となって、金融/不動産ビジネスのブラッシュアップならびに当該事業におけるAIの活用を踏まえた事業活動を進めることにより、さらなる高成長企業への変革を全身全霊で取り組む所存です。

#### 2 具体的な取り組み

##### (1) 不動産ビジネス偏重の是正

当社は、金融ビジネスと不動産ビジネスの二本柱でマーチャントバンキング事業を手掛けると公表してまいりましたが、実体としましては不動産ビジネスに偏重していたことは否めません。その結果、当社の証券市場における評価も、不動産業界をベースにした評価と考えております。

今後は、不動産へ割いてまいりましたリソースを他の事業へ配分することにより、高成長ビジネスへの変革を図ってまいります。

なお、不動産ビジネスにおきましては、これまでの賃貸収入や不動産売却益に依存する体制から、不動産の収益物件化や証券化などに取り組む企業のM&Aや人材資本の強化により、高付加価値の安定収益が見込めるビジネスへと展開してまいります。

##### (2) 金融ビジネスの多様化

これまで、純粋な金融ビジネスはほぼ手掛けていないと言っても過言ではない状態でした。今後は、金融ビジネスに取り組む企業のM&Aや人材資本の強化により、金融ビジネスの拡充を図って

まいります。

具体的には、自己投資による収益獲得の他、M&Aアドバイザーなどのfeeビジネス、PIPEsによる安定収益の確保などを行ってまいります。

### (3) AIビジネスへの投資

当社は、これまでAI関連ビジネスについての取組みはございませんでしたが、今や日々加速度出来に進化するAIをビジネスに組み込まなければ、ビジネスの効率化において遅れを取ってしまうという危機感を強く感じております。

したがって、AI関連企業を弊社グループへ招くことが、喫緊の課題と認識しております。

現在、複数のAI関連企業との接点を持ち、不動産/金融ビジネスの加速化を図るべく、取り組んでおります。

### (4) 人的資本投資の強化

当社の各事業が停滞状態から成長軌道を描く前提として、M&Aと並んで人材資本投資の強化は必須のものと考えております。既存人材のリスキリングはもちろん、外部の優秀な人材の積極的な確保により、ビジネスチャンスの拡大につなげてまいります。

### (5) IR機能の強化

当社がこれまで行ってまいりませんでした、中期ビジョンの策定、中期経営計画の発表、決算発表会及び決算発表会資料の公表、定期的な投資家ミーティングなど、IR人材の確保及びIR強化により、幅広いIR機能を有する会社に生まれ変わります。

当社が目指すビジネス目標を投資家の方々にご理解いただき、当社へご期待いただくことで、今後の当社の成長に見合った市場での評価をいただけますよう、鋭意努力してまいります。

## 3 経営指標と株主還元方針

### (1) 経営指標

経営ビジョン策定現在の最も重要な指標として当社が掲げますのは、「2029年10月期において株式時価総額200億円以上」となります。各事業におけるKPIの策定、売上/利益目標の策定、目標とする経営指標等につきましては、中期経営計画策定時において発表してまいります。

### (2) 株主還元方針

当社は、これまで安定的な配当を主たる株主還元策として実施してまいりました。また、自己株式の取得による資本効率の向上や株主優待としてのQUOカード贈呈などを行っております。

ただし、他社と比べて特別高い株主還元を行ってきたわけではなく、「月並み」な状態であったことは否めません。

この度、中期経営計画を策定していくにあたりまして、目標値の達成度合いによって株主の皆様にも喜んでいただける株主還元策を提供してまいる所存です。どうぞ、当社の「高成長化」にご期待くださいませ。

以 上

# MBKグループ中期ビジョン2029

高成長企業への変革

目標時価総額

200億円

実行期間

3年5か月

戦略領域

5領域



## 中期ビジョン策定の背景

MBKグループ中期ビジョン2029



マーチャント・バンカーズ株式会社

### ▲ 現状認識と課題

過去5年間は、不動産をベースに事業基盤を再構築し、ここから次の成長フェーズへ転換してまいります。

最近5年間

第1フェーズ

10,522

2007年3月期  
ピーク売上 (百万円)

大幅拡大

流動性目標

#### ✖ 主な課題

- 事業ポートフォリオのリバランス
- 投資家層拡大による流動性の拡大
- 成長シナリオの明確化 (中期経営計画の策定)

### 🔗 変革の決意

第五次産業革命に突入した現在、AIが主役となり、全ての産業に変革をもたらすと言われています。

既存事業 (金融/不動産)

ブラッシュアップ

新事業

AIを、既存事業への組込み

### 🕒 歴史的なタイムライン

- 2014年3月期～2016年3月期  
売上下降期  
ピーク時の業績から売上を下げ続け、2018年3月期における連結売上は17億9400万円まで落ち込みました。
- 2019年3月期～2026年10月期  
売上回復期 (第1フェーズ)  
不動産ビジネスを軸に、売上規模を40億円台まで回復。不動産ビジネス重点戦略が、功を奏してまいりました。
- 2026年6月  
中期ビジョン策定決議 (第2フェーズへの移行準備)  
取締役会で「MBKグループ中期ビジョン2029」を決議
- 2026年10月期  
中期経営計画策定 (第2フェーズ始動)  
2027年10月期～2029年10月期 (3か年)
- 2029年10月期  
目標達成  
時価総額200億円以上を目指す



# 過去の株価推移と企業ポジション

MBKグループ中期ビジョン2029



マーチャント・バンカーズ株式会社





# 基本方針

MBKグループ中期ビジョン2029



当社は、これまで適切な適時開示及び透明性の高い決算情報の開示に努めてまいりましたが、不動産の売却益といった見通しが立て辛いビジネスを展開していましたので、中期的なビジョンは明示していませんでした。この度、取締役会において議論を重ねた結果、第2フェーズとして、さらなる高成長企業へと生まれ変わる決意をし、中期ビジョン策定を行いました。



## AIビジネスへの投資

第五次産業革命への対応

★ 新規

日々加速度的に進化するAIをビジネスに組み込み、ビジネスの効率化において遅れを取らない。複数のAI関連企業との接点を持ち、不動産/金融ビジネスの加速化を図ります。



**不動産分野** 不動産AI査定、AIチャット活用、追客AIエージェント等

**金融分野** 財務分析AI、投資分析AI、バリュエーション解析AI等



## 既存ビジネスリバランスとAI活用による効率化

ポートフォリオの最適化

AI改革

不動産ビジネスに偏重していたリソースを金融事業へ配分し、さらにAIを活用することで、高成長企業への変革を図ります。



## 人材投資

業容拡大に伴う人的資本の強化

↑ 筋力UP

既存人材のリスキリングはもちろん、外部の優秀な人材の積極的な確保により、ビジネスチャンスの拡大につなげます。人材資本投資の強化は、必須です。



**IR戦略** 投資家との対話を強化するための人材確保

**内部統制** 規模拡大に伴う管理体制の強化、IFRS対応等の人材確保



## IR機能の強化

投資家との信頼関係構築

✓ 投資家重視

中期ビジョンの策定、中期経営計画の発表、決算発表会開催、決算発表会資料の公表、定期的な投資家ミーティングなど、幅広いIR機能を有する会社に生まれ変わります。

中期ビジョン策定

中期経営計画発表

決算発表会開催

決算発表資料公表

投資家ミーティング開催



## 現状認識と主要課題

MBKグループ中期ビジョン2029



マーチャント・バンカーズ株式会社



### 不動産ビジネスから多角化へ

第1フェーズは不動産ビジネスに注力してまいりましたが、今後はより収益性・成長性の高いビジネスに投資を行ってまいります。

90%以上

不動産依存

10%未満

金融比率



### 金融ビジネスの領域拡大

これまでも金融ビジネスへの取り組みを行ってまいりましたが、今後、M&A、PIPEsといった新しいビジネスへ事業領域を拡げてまいります。

低

金融収益

高

ポラティリティ



### AI事業への進出

今後飛躍的な成長が見込まれるAI関連ビジネスに対して、積極的な投資を行う事で、既存事業も含めたビジネスの効率化とグループ成長を図ってまいります。

0%

AI投資

未

AI導入

## 主要課題と対応策



### 収益性・成長性のさらなる向上

不動産投資からのリバランスによる、収益性・成長性のさらなる拡大を目指します。

● 緊急対応必要



### 投資家コミュニケーションの増加

新たなIR施策の実施による、投資家とのコミュニケーションとの拡大を図ってまいります。

● 改善中



### 人材・体制の強化

既存人材のリスキリングと外部優秀人材の確保を図ってまいります。

● 計画中



### ポートフォリオ是正

不動産へ割いてまいりましたリソースを他の事業へ配分し、高成長ビジネスへの変革を図ります。

進捗率

75%



### IR機能強化

中期ビジョンの策定、中期経営計画の発表、決算発表会の定期開催を実施。

進捗率

60%



# 具体的な取り組み① 不動産重視からの脱却

MBKグループ中期ビジョン2029



## Before：不動産重視

賃貸収入・売却益への依存度が高い

### 収入構造

第1フェーズでは、賃貸収入と不動産売却益が収益の柱となってきた。過去5年間に於いて、安定的な成長を遂げてきたが、爆発力に欠ける構造であった。

90%

不動産依存

10%

金融比率

### 評価状況

証券市場における評価は、不動産業界の評価に近いものとなっており、高成長企業としての見方をされることはなかった。

業績回復初年度の2021年11月には期待から株価は高値919円をつけるが、その後、250~400円のレンジにおいて推移している。

評価レベル

30%



変革

M&A・証券化



## After：多角化・高付加価値化

証券化・収益物件化、高付加価値収益

### 収益構造

不動産の開発や証券化（セキュリティトークン等）などを取り組む企業のM&Aにより、高付加価値かつ安定収益が見込めるビジネスへ、投資をシフトする。

30%

不動産依存

70%

金融比率

### 評価向上

高付加価値の安定収益が見込めるビジネスへと展開

評価レベル

85%



課題：投資のリバランスにより、高成長ビジネスへの変革が必要



目標：不動産ビジネスからのリバランスをしにより、高成長企業へ



M&A推進

証券化・収益物件化企業の買収



人材補強

ストラクチャリング機能の内製化



収益多様化

アセットマネジメントFee等



## 具体的な取り組み② 金融ビジネスの多様化

MBKグループ中期ビジョン2029



マーチャント・バンカーズ株式会社

これまでは、投資ポートフォリオにおいて不動産の比率が高い状態でした。今後は、投資のリバランスを図り、金融ビジネスを取り組む企業のM&Aや人材資本の強化により、金融ビジネスの拡充を図ってまいります。



### 自己投資による収益獲得

成長中

プリンシパル投資

自己投資による収益獲得を推進。M&Aを含む有価証券への直接投資により、資本効率の向上と収益の最大化を図ります。



グループ企業増加による連結収益の拡大  
割安企業への投資によるキャピタルゲイン



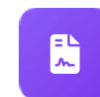
### M&Aアドバイザー Feeビジネス

高収益

M&Aアドバイザーなどのfeeビジネスを展開します。企業のM&A支援、財務アドバイザー、デューデリジェンス等を提供してまいります。



高付加価値ビジネスによるROIC伸長  
M&Aノウハウの蓄積



### PIPEsによる安定収益 安定収入源

安定

PIPEsによる安定収益の確保。上場企業への私募投資により、長期的な安定収入を確保します。



安定収益の確保  
投資企業成長によるキャピタルゲイン



### 金融事業におけるAIの活用 事業効率化



自己投資 AI買収監査 AI収支予測 AIバリュエーション評価など



M&Aアドバイザー AI買収監査 AI株価算定 AI契約作成など



PIPEs AI投資評価 AI会計管理 AI投資レポート作成など



## 具体的な取り組み③ AIビジネスへの投資

MBKグループ中期ビジョン2029



マーチャント・バンカーズ株式会社

当社は、これまでAI関連ビジネスについての取組みはございませんでしたが、先日、第一弾としてAI企業であるTIGEREYEへの出資を行い、持分法適用会社としました。今後はさらなるAI関連ビジネスを重点投資対象とし、当社の既存ビジネスにも組み込むことで、ビジネスの飛躍的な効率化を図ってまいります。



### 短期：AI企業への出資・買収

1-6ヶ月

目標：AI企業のグループ化

- 複数のAI関連企業との接点
- 出資・買収の検討・実行
- 不動産/金融ビジネスの加速化



企業買収・資本提携  
現在、複数社を検討中

● 2026年Q3-Q4 ● 進行中

進捗率 60%



### 中期：PoC・業務自動化

6-18ヶ月

目標：AI技術の検証と業務効率化

- PoC（概念実証）の実施
- 業務自動化（審査/評価/ソーシング）
- AIツールの導入検討



不動産/金融ビジネスの効率化を図る

● 2027年Q1-Q2 ● 計画中

進捗率 40%



### 長期：プロダクト/データ活用

18-36ヶ月

目標：AI技術の完全内製化

- プロダクト開発の内製化
- データ活用の高度化
- 独自AIソリューションの構築

事業競争力の強化

● 2028年Q1-Q2 ● 計画中

進捗率 25%



### 期待効果

意思決定の高度化、コスト効率化、スピード向上、業務の自動化による生産性向上

+70%  
効率化

-30%  
コスト削減



## 具体的な取り組み④ 人的資本投資の強化

MBKグループ中期ビジョン2029



マーチャント・バンカーズ株式会社

当社の各事業が成長軌道を描く前提として、M&Aと並んで人材資本投資の強化は必須のものと考えております。既存人材のリスキリングはもちろん、外部の優秀な外部人材の積極的な活用により、AIのビジネス活用とビジネスチャンスの拡大につなげてまいります。



### 既存人材のリスキリング

🔄 進行中

スキルアップ・能力開発

投資、データ、IR、法務/リスク等の分野において、専門スキルを既存人材に習得させ、事業の成長を支える人材基盤を強化します。

💡 社内に、一定スキルを有する人材がすでにいることから、社内で専門スキルの共有化を図る施策を実行しております。

50+ 対象者 80% 完了率

進捗率

75%



### 外部優秀人材の積極活用

★ 急募

専門人材確保

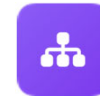
AI、金融工学、ストラクチャリングなどの専門性を持つ外部人材を積極的に活用し、組織の能力を強化します。

💡 個別での採用を実行すると高コストになることが想定されるため、AIベンチャーとのパートナーシップや企業買収によるリソース拡大を視野に含めて進めます。

20+ 採用予定 90% 定着率

進捗率

30%



### 制度整備・組織強化

✔️ 完了

評価・報酬体系

育成プログラム、評価/報酬連動、多様性推進などの制度整備を行い、人材の活性化を図ります。

💡 モチベーションUPを図るための透明性の高い評価制度構築と、業績に連動する報酬の仕組みを構築してまいります。

100% 制度整備 5 新制度

進捗率

50%



## 具体的な取り組み⑤ IR機能の強化

MBKグループ中期ビジョン2029



マーチャント・バンカーズ株式会社

中期ビジョンの策定、中期経営計画の発表、決算発表会及び決算発表会資料の公表、定期的な投資家ミーティングなど、積極的なIR活動を展開することで、幅広いIR機能を有する会社に生まれ変わります。



### 中期ビジョン策定・中期経営計画の発表

透明性の確保

🔄 進行中

中期ビジョン策定（2026年6月）と中期経営計画（2027-2029）の発表をします。投資家への適切な情報提供と透明性の高い決算情報の開示に努めます。

- ✓ 中期ビジョン2029の策定・公表
- ✓ 2027-2029年の中期経営計画発表

50% 完了率



### 決算発表会・資料公表

定期的な情報開示

📅 定期実施

決算発表会及び決算発表会資料の定期公表を行います。四半期ごとの決算説明会を開催し、投資家との対話を重視します。

Q1



Q2



Q3



Q4

4回/年 開催頻度



### IR・内部統制人材の確保

専門人材の採用

🕒 進行中

IR・内部統制人材の確保及びIR強化により、幅広いIR機能を有する会社に生まれ変わります。

- ✓ IR・内部統制専門人材の採用
- ✓ IR機能の仕組み化
- ✓ 双方向コミュニケーション強化

3名 目標採用数



### 投資家ミーティング

継続的な対話

📅 定期実施

リモートを活用した定期的な投資家ミーティングを継続開催し、個人投資家の方々との直接的なコミュニケーションを持てる場を提供してまいります。

📌 期待成果：事業理解の深化、流動性向上、適正な市場評価

月1回 開催頻度



# 経営指標と株主還元方針

MBKグループ中期ビジョン2029



マーチャント・バンカーズ株式会社



最重要KPI：株式時価総額

## 200億円以上

2029年10月期目標

目標達成度

### 35%

### 株主還元方針

✓ 進行中



安定配当

継続的な配当

3%～



自己株式取得

資本効率改善

5%～



株式分割

買いやすい株価

～1,000円



目標達成度合いによって、株主の皆様にも喜んでいただける株主還元策を提供してまいります。

### 経営指標

✓ 進行中



売上高  
過去最高売上



営業利益率  
15%～



PER  
50倍～



M&A、提携企業数  
20社以上



# 時価総額200億円へのロードマップ（2026→2029）

MBKグループ中期ビジョン2029



マーチャント・バンカーズ株式会社

コアメッセージ：安定成長から高成長へー不動産×金融×AIで持続的価値創造。2026年6月のビジョン決議から2029年の目標達成までのロードマップをご案内いたします。

## ロードマップ（2026→2029）

✓ 進行中



2026年6月  
ビジョン決議  
完了



2026年内  
中期計画公表  
進行中



2027-2029  
実行・検証  
計画中



2029年  
目標達成  
計画中

- ✓ 中期経営計画の策定と公表
- ✓ 決算発表会の定期開催
- ✓ 投資家ミーティングの継続開催



2029年10月期において株式時価総額200億円以上を目標としています。

## 投資ターゲット

✓ 進行中



AI/DX関連



高収益不動産



上場企業



## feeビジネスのターゲット



ファンド組成



M & Aアドバイザー



上場企業  
コンサル



## 投資家・ステークホルダーとの対話強化

当社の「高成長化」にご期待くださいませ